

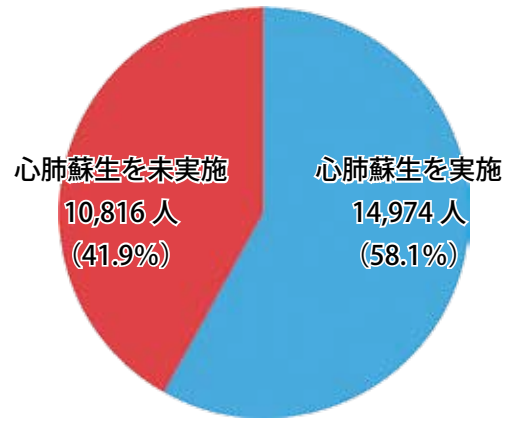


つなぐ・・・①相手の気持ちなどが離れていかない

ようにする。②結びつけてひと続きのものにする。③長く、切れないようにもたせる。たえないようにする。

■ 数字で読み解く
心肺蘇生とAEDの有効性

日本全国における、令和2年に一般市民が目撃した心原性心肺機能停止傷病者数は、**25,790人**でした。そのうち、一般市民が心肺蘇生を実施した傷病者数の有無は・・・



一般市民が心肺蘇生を実施した場合と未実施の場合の1か月後の生存者数と社会復帰者数を比較してみると・・・

	心肺蘇生を実施	心肺蘇生を未実施
1か月後生存者数	2,273人 (15.2%)	882人 (8.2%) 約1.9倍
1か月後社会復帰者数	1,530人 (10.2%)	412人 (3.8%) 約2.7倍

一般市民が心肺蘇生を実施した傷病者数 14,974人のうち、AEDを使用して除細動器を実施した傷病者は、**1,092人**でした。そのうち、1か月後の生存者数と社会復帰者数は・・・

	心肺蘇生+AEDを実施
1か月後生存者数	581人 (53.2%)
1か月後社会復帰者数	479人 (43.9%)

『令和3年版 救急・救助の現況』に基づいて作成

心肺蘇生の実施であっても、生存者数、社会復帰者数ともに高く、心肺蘇生+AEDの実施ではそれ以上の生存者数、社会復帰者となっていることがわかります。

◎ 心肺蘇生

胸を強く圧迫する「胸骨圧迫」と、口から肺に息を吹き込む「人工呼吸」によって止まってしまった心臓と呼吸の動きを助ける方法です。AEDの効果を高めるとともに後遺症を残さないためにも重要です。

◎ AED（自動体外式除細動器）

心臓が突然止まるのは、心臓がブルブルと細かくふるえる「心室細動」が原因となることが少なくありません。この場合には、できるだけ早く心臓に電気ショックを与え、心臓のふるえを取り除くこと（除細動）がとても重要です。

AEDは、この電気ショックを行う為の機器で、自動的に心室細動かどうかを調べて、電気ショックが必要かどうかを判断し、音声メッセージで指示を出すため、一般の人でも簡単に確実に操作することができます。

つなぐ

『救命のリレー』の第1走者として私たちにできること

今月の特集は、緊急事態の際に、大切な人を守るための一次救命処置（心肺蘇生とAED）についてご紹介いたします。

私たちは、いつ、どこで、突然のけがや病気におそわれるかわかりません。もし、何の前触れもなく突然、目の前に心臓や呼吸が止まってしまった人がいたら、あなたは、どのように行動しますか。その人が、夫、妻、父、母、子ども、親友だったら、後悔しないように行動ができるでしょうか。

119番通報を行ってから、救急隊が到着するまでに全国平均で約9分かかると言われています。目の前の命を助けるために、『私たち』から『救急隊』へ、『救急隊』から『医師』へ、命のバトンを引き継ぐ『救命のリレー』を途切れさせてはいけません。愛と勇気を持って、救命の第1走者として、『救命のリレー』をスタートさせてください。